

# 特許の影響力を数値化

## 野村総研子会社 名詞句数、指標に

野村総合研究所子会社 ト（東京・千代田）は、法で数値化するシステムのNRIサイバーパテン 特許の影響力を独自の手を開発した。特許の内容

めるといふ。

ミノル国際特許事務所（東京・港）の弁理士である安彦元・所長が考案した数値化技術をもと

を説明する文章を分解し、名詞句の数を指標にして評価する。特許を出願する前に競合他社の出願内容を調べるときに、調査対象となる特許の数を20分の1程度に絞り込

に、ソフトウェアを開発した。

文章は名詞句と動詞句でできている。特許の文書の中で、動詞と結びつく名詞句を指標にした。

安彦所長の分析による

と、こうした名詞句が多い特許ほど技術範囲が狭く影響力は弱い傾向にあるという。

例えば「レアアースを使う」という文章では、

名詞句は「レアアース」の1つ。「レアアースを磁石に使う」となると、

「レアアース」と「磁石」の2つが増える。

この指標から特許の強さを示す独自の評価基準を作成した。2013年2月に新ソフトを利用する特許検索サービスを開始する。